

佐和高校同窓会 つづき

会報 君の心...

第4号

平成27年7月10日

会長挨拶



会長

國井 丈尚

会員の皆様にはますますのご清祥のこととお喜び申し上げます、また、日頃から同窓会に対しご理解とご支援ご協力を賜り、同窓会事業を遂行できますことに対し心より感謝申し上げます。

さて、昨年は我々の母校佐和高校の創立三十周年の節目に当たりました。

同窓会としても記念事業に参画してまいりました。三十周年においては新しく校舎内に設けられました学習室整備の一つとして空調機及び自習用ブース・椅子を寄贈いたしました。

その他、今回初めて同窓会主体での会員名簿の発行に至ることもできました。この名簿の発行をきっかけに旧友や先輩後輩の交流の輪が広がり、更には今後の佐和高校の発展に寄与できればと考えております。

また、私達同窓会においても会員数が六千七百を超すところとなり非常に大きな組織となりました。昨年入学された第三十回の新入生が卒業を迎える時、私達同窓会も三十周年を迎えます。

改めて同窓会活動を振り返ってみますと、感慨もひとしおであります。最初のころは何を行って行けば良いかわからず、ずいぶんと学校側に面倒を見て頂きました。数年前から徐々に自力で活動できるようになり、平成二十年には第一回総会を開催することができました。これも歴代の校長先生をはじめとする諸先生方と同窓会会員の皆様のご協力とご支援によるものと感謝する次第であります。

私たち佐和高等学校同窓会は、同窓生同士が一致団結して、母校の良きパートナーとして、在校生に必要なサポートを行い、又、同窓会会員の皆様との親交を深めるため、会報「君の心...」の発行してまいりました。

インターネットが普及したデジタル時代の中、会報という紙面でのネットワーク活動ではありませんが、卒業生の情報や母校の近況などを紙面ならではの温かみのある情報を伝えて行きたいと思っております。

また、これまで二回に渡り同窓会総会を開催してまいりました。参加人数も六十名程度と小規模ではありますが、旧交を深めたり、世代を超えた新たな繋がりが生まれたりと少しずつ着実に同窓会活動が定着し成長していると感じております。平成二十八年には第三回の開催を予定しております。どうか一人でも多くの会員の皆様にお声をかけていただき、御参加いただければ幸いです。

今後ますます同窓会活動を活発にし、母校の発展及び会員の皆様の交流に尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

結びに、母校の益々の発展と会員の皆様の更なるご活躍を祈念しまして、第四回会報の発刊にあたり、ご挨拶とさせていただきます。

同窓会名称及び会報名称について

各名称について、総会終了後のアンケートにて募集し、次のように決定いたしました。
同窓会名称「つづき」は、佐和高校の校章であり、皆様にとっては懐かし、親しみやすい花であることと思います。つづきの花の種類は500以上を越えるともいわれ、本会も「つづき」のように、個性豊かな花を咲かせ、実を結ぶるよきな会へと発展していきたいとの願いを込め採用させて頂きました。

「君の心」は、アンケートで一番多かった校訓から引用しました。「...」とは、会員の皆様ご自身で、言葉を入れていただくことにより、初めて完成する、また、会員の皆様のその時々的心境や状況により、言葉を変え、当時を懐かしんだり、励みや支えとなるような会報作りをしたい、というこを意味を込めて、つけさせて頂きました。

今後は、同窓会「つづき」、会報「君の心」をよろしくお願い致します。

新名誉会長挨拶



新名誉会長(校長)

額賀 俊光

平成27年4月に、県立磯原郷英高校より、赴任してまいりました。私事ではありますが、地元「ひたちなか市」に在住し、一市民として「佐和高校」の名は承知しておりましたが、今回のご縁となりました。過去の節目に発行された記念誌「十・二十・三十年の歩み」を紐解くと、私自身、過去に様々な場面でお世話になった懐かしきもある諸先輩の写真を拝見するにつれ、本校のこれまでの歩みを継承・発展させるための覚悟に身が引き締まる次第です。

「同窓」と「同級」の違いを辞書で調べると、「同窓」とは同じ学校を出た仲間で学年は関係ありません。一方、「同級」とは学校が違っても同じ学年で有れば良いのです。その意味では同窓生は時間軸の違いはあっても、「佐和高」の雰囲気や感覚を共有する仲間です。

平成27年3月1日に新たに234名が巣立ち、これで、昭和63年の第1回卒業式以来、6949名の同窓生が誕生しました。2014年発行の同窓会会員名簿は120頁にも及びます。

さて、平成25年度の進路状況は、国公立合格者3名、私立大(含短大)100名、専門学校等89名、就職23名となっております。26年は、国公立(含短大)合格者5名、私立大(含短大)138名、専門学校等56名、就職22名となっております、特に国公立の合格者数は近年、素晴らしい結果となりました。

平成25、26年度で関東大会以上の出場を果たした部活は、陸上部、書道部、弓道部、吟詠剣詩舞、吹奏楽部、写真部、家庭クラブ、筆曲部、朗読部、美術部、アーチェリーです。23を数える各部活の活躍が、学校の活性化に繋がっております。

平成27年度県の指定事業「活力ある学校づくり」では、「心の教育」の充実とコミュニケーション能力の育成・体験活動を通して「指定を受け、ボランティア活動を充実させる予定だ。」「やさしさや思いやりの心と目的に立ち向かっていく逞しさを醸成する」「自己理解及び他者理解を基盤とした、多様な見方・考え方を受容出来る心の育成」「自分自身を表現出来る力の育成」「地域との連携強化」を目標として、具体的には、多くの生徒が震災復興ボランティアや校外ボランティア活動への参加を予定しております。前々任校でも震災ボランティアを行ったのですが、見聞だけでなく、実際に自分の目で見て、体験することが、生徒の内面を叩き、自身は大きな変化や成長を遂げることになるでしょう。

最後になりますが同窓会におかれましては、在校生の活躍に対し、影になり日向になって、ご理解とご支援を一層お願いする次第であります。

前名誉会長挨拶



前名誉会長

藤田 雅一

「30周年を経て・・・」

平成27年3月末日をもって定年退職となりました。

平成24年に赴任して3年間、大過なく勤めあげることができましたのは、同窓会の皆様をはじめ関係者の方々のお力添えのお陰であると思っています。本当にありがとうございました。

生徒諸君の笑顔、心地よい挨拶。外光溢れる校舎。本校での思い出は、常に明るさのなかにあります。30周年という時間を経ても、まだまだ清新さを失わないキャンパスは本校の自慢の種。特に隣のプロスペクトガーデン3階から眺める本校校舎は一瞬息を呑む美しさです。(特に薄暮のなか灯りがつきはじめた時の姿は最高でした。)本当に心穏やかに過ごすことができた3年間でした。

最後の年、30周年記念行事は大きなイベントでした。平成24年度、渉外部部長鈴木一美先生が意を受けてくださり、実施までの計画をつくり、25年度から渉外部部長になった龍崎由美子教諭が中心となって実施に漕ぎ着けてくださいました。振り返ると、常に意識した「佐和高らしさ」を貫くことができたのではないかと思います。

30周年記念行事を引き立ててくれた2つの出来事がありました。六崎俊光さん、横須賀幸男さんからの作品寄贈でした。六崎さんは茨城県を代表する彫刻家、本校30周年に合わせた作品を御寄贈くださるという申し出をいただいた時は一瞬戸惑いました。それほど思いがけないことでした。御寄贈戴いた「虚心」は多目的ホールの外側、芝生の上で常に生徒諸君を見つめています。時折、「虚心」の側で佇むことがあります。虚心＝無限な心の広がり、校訓の精神そのもの、戴いて本当に良かったと思います。

横須賀幸男さん、横須賀先生は本校の美術教諭、私と同じ年齢で共に退職しました。先生は抽象的な絵画を描き、県内に止まらず高い評価を得ている芸術家です。30周年に合わせた作品の御寄贈は本当にうれしいことでした。多目的ホール3階東側のスペースに取り付けました。そこにあるべき最高の場所だと思えます。タイトルは「S.A.W.A.」見つめていると何かしらの安らぎを感じます。

30周年の最高のプレゼントでした。40年、50年・・・と歴史を重ねて行くことになりましたが、これらの作品は、30周年に私たちが「ここ」にいた証であるとともに、その時の生徒諸君、教職員への私たちのメッセージ、指針であって欲しいと祈っています。

今後、本校とともに同窓会が歩み、歴史を一步一步築いて行くことを心から祈念しております。本当に3年間、お世話になりました。

助成金一覧

平成24・25年度会計報告

氏名・団体名	学年	大会別	大会等名称	開催地	団体・個人別	交付額	交付月日
堀田 愛里 (陸上)	3	関東	第65回北関東高校 陸上競技対校選手権大会 (女子砲丸投げ)	群馬県	個	30,000	H24.10
神戸 巧 (陸上)	1	関東	第16回関東高校 選抜新人陸上競技選手権大会 (男子3000m)	山梨県	個	30,000	H24.11
吹奏楽部		全国	第29回SHOBIソロコンテスト & アンサンブルコンテスト	東京都	団	80,000	H25.1
神戸 巧 (陸上)	1	関東	第65回関東高校 陸上競技選手権大会(男子3000m障害)	埼玉県	個	30,000	H25.8
詩吟剣詠部 同好会	2	全国	第37回全国高等学校 総合文化祭詩吟詠詩舞部門 茨城代表チーム	茨城県	団	50,000	H25.8
弓道部 男子4名、 井上 真奈	1,2 2	関東	第32回関東高等学校 弓道個人選手権選抜大会	東京都	団	80,000	H25.8
吹奏楽部		関東	第19回東関東 吹奏楽コンクール高等学校A部門	神奈川県	団	80,000	H25.8
神戸 巧 (陸上)	2	関東	第86回関東陸上競技選手権大会 (男子1500m)	山梨県	個	30,000	H25.8
吹奏楽部		関東	第19回日本管楽合奏コンテスト	東京都	団	80,000	H25.10
神戸 巧 (陸上)	2	関東	第17回関東高校 選抜新人陸上競技選手権大会	神奈川県	個	30,000	H25.10
小林 俊介	2	関東	関東高校 弓道個人選手権大会(男子3000m障害)		個	30,000	H26.1
吹奏楽部		全国	第30回SHOBIソロコンテスト & アンサンブルコンテスト	東京都	団	80,000	H26.1

報告第2号

茨城県立佐和高等学校同窓会「つづき」平成24・25年度会計報告

収入 額 13,174,134円
支出 額 2,179,067円
差引残額 10,995,067円

項目	予算	決算	比較増減	備 考
同窓会入会費	2,400,000	2,285,000	△ 115,000	H24年度生 85,000円×229人 H25年度生 85,000円×229人
繰 越 金	10,888,391	10,888,391	0	現金 2,565,225円 定期預金 8,323,166円
繰 入	11,609	743	△ 10,866	繰入金、預金利息等
収入 計	13,300,000	13,174,134	△ 125,866	

(支出の部)

項 目	予算	決算	比較増減	備 考
名 簿 整 備 費	53,340	53,340	0	メンテナンス費用 53,340円×2年
同窓会誌発行費	700,000	696,517	△ 3,483	会報印刷費用 272,055円 会報発送費用 424,462円
総 会 費	1,000,000	483,535	△ 516,465	
会 議 費	100,000	19,590	△ 80,410	通知発送費、会場費、飲み物代
入 会 式 開 閉 費	408,000	227,985	△ 180,015	卒業記念品費 225,985円 諸経費(弁当、交通費)
助 成 金	700,000	680,000	△ 20,000	部活動への助成金 680,000円
雑 費	30,000	-	△ 30,000	贈込手数料等
予 備 費	10,255,320	18,100	△ 10,237,220	卒業式費代 入学式費
支出 計	13,246,660	2,179,067	△ 11,067,593	

(資産の内訳)

現 金 1,996,324円
定期預金 8,323,166円

茨城県立佐和高等学校同窓会平成24・25年度会計について、上記のとおり報告します。

平成26年 6月 6日

茨城県立佐和高等学校同窓会会長 國井玄尚

創立三十周年記念式典

平成二十六年十一月七日(金)、私達の母校佐和高校の創立三十周年記念式典が執り行われました。同窓会長はじめ、役員五名が実行委員として出席しましたので、その模様をご報告致します。

当日は、さわやかな秋空が広がり、母校の誕生日を祝うような思いで校門をくぐりました。初めに印象的だったのは、出迎えてくれた生徒や廊下ですれ違う生徒の皆さんの挨拶の素晴らしいことでした。今日が特別な日だから、ではなく、先生方のご指導のもと、普段から身に着いた行動なのだと感じました。そして、掃除の行き届いた校舎。日頃の活気ある活動をうかがい知ることの事の出来る掲示物。学校全体で今日の日を迎え、新たなスタートを切ろうとしているかのような、熱い思いを感じました。

式典に先立ち、記念事業の一環として中庭に設置された六崎敏光氏製作の彫刻「虚心」の除幕式が行われました。

また、もう一つの記念事業である横須賀幸男先生(本校美術教諭)による絵画作品「SAWA」は、校舎本館三階の壁面に設置されました。



彫刻『虚心』 六崎 敏光氏



体育館に移動した後、九時三十分には第一部の式典が始まりました。国歌斉唱は、吹奏楽部の伴奏によります。皆さんご存知のように、毎年吹奏楽コンクールで上位入賞している母校の吹奏楽部。その演奏は、本当に素晴らしく大変感激いたしました。その後、実行委員長挨拶、藤田学校長式辞、県教育委員会挨拶と続き、同窓会を代表して国井会長が挨拶をしました。本間ひたひた市長を始めとする来賓祝辞、来賓紹介に続いて、生徒を代表しての現生徒会長の挨拶です。心のこもった自らの言葉での堂々とした挨拶に、微笑ましくも誇らしい思いが致しました。そして、私達役員にとりまして、久しぶりの校歌斉唱。再び、吹奏楽部の伴奏によります。現役の時よりも卒業してからの方が、校歌の意味は心に響くのかもしれません。久しぶりに歌う校歌に、吹奏楽部の質の高い演奏がより深みを持たせてくれた気がしました。

十時五十分、第二部記念公演の始まりです。これは、筆者が大変楽しみにしていたものでした。まずは、ライブを中心に活躍している、第十五回卒業生で歌手の柴田知美さんのステージ。小柄な体からは想像もつかない程のハートフルでパワフルな歌声、そして歌詞やメロディーが本当に切なく胸に迫りました。特に「アカネイロ」という曲は、私がこの母校で放課後に見た美しい夕焼けを思い出させてくれ、二度と戻らない日々を思い、胸に込み上げるものを抑え切れずに聴き入っております。

次は、第二十四回卒業生で、東京芸術大学器楽科在学中の、皆神陽太さんのステージです。本校吹奏楽部出身の皆神さんは、木管楽器のファゴットを専攻され、普段私たちがなかなか聴くことの出来ない、やわらかく美しいファゴットの音色を、ピアノを伴奏にソロで聴かせて下さいました。



柴田 知美さん



皆神 陽太さん